

「キリストのうちに根ざし」

コロサイ 2：7

堀田修一 25・9・14

I 「根ざす」原語：根づかせる、根を下ろさせる、しっかりした土台の上に置く、固定させる、深く根ざす、堅く土台を置くの意→キリストの中に深く根づく、根を下ろす、キリストは救い主、優しく、罪を赦す方、きよめる方、暖かい方、悩みを聞き、寄り添い理解して下さる方。証し：人生の土台の主に感謝！

II キリストの中に深く根ざさない時→

- ①「岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。しかし、自分のうちに根がないため（キリストの中に根ざしていないため）、しばらくの間そうするだけで、みことばのための困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます」（マタ 13：20、21）。一時的に熱心でも、主から離れてしまう。
- ②キリスト、聖書ではないものに根ざしてしまう→活動、イベント主義、動き回ることで、自分自身やキリスト御自身をみつめることをしない。ごまかしてしまう。「いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと富の惑わしがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです」（13：22）。「金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。金を追い求めたために、信仰（キリストに根づく信仰）から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました」（1テモ6：10）。私たちは皆弱い。金銭の欲望、不品行の欲望、名誉欲に根ざし、のめり込むことから守られ、真の正しさと愛の満たしを与えてくださるキリストに根ざせるように共に祈り合い支え合いたい。「神のみこころは、あなたがたが聖なる者（主の姿に似る）となることです。あなたがたが不品行を避け」（1テサロニケ4：3～5）。不品行、悪の誘惑等にはまり、根づく、心、思い、考え、行動も汚されていく。依存症にもなる。心も人生も駄目にする。一人では弱い。それらから守られるように共に祈り合いたい。

III キリストの中に根ざすとは→

1. 「あなたは、いろいろなことを思いわずらって、心を乱しています。しかし、必要なことは一つだけです」（ルカ 10：41、42）→「主の足もとに座って、主のみことばに聞き入っていた」（10：39）。主のもとに静まり、みことばに聞き入り、主に深く根ざす時、主の喜ばれる奉仕が示され主の力による実践へ導かれる。キリストに深く根ざさない自分勝手な活動、動き回ることは、自分の霊性、霊的状态、主との関係をやせ衰えさせ、疲れさせ、真の喜びが無く霊的な根無し草のようになり世に流されてしまう。
2. 永遠に変わらないキリストの愛に根ざす。私たちを心から愛してくださる主の温かい愛を日々心から信じ受け入れる。その愛を知り続ける。「主に愛されている兄弟たち」（1テサロニケ2：13）。キリストの「愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、すべての聖徒たちとともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに超えたキリストの愛を知ることができますように。」（エペソ3：17～19）。

3. キリストの中に深く根ざすことは、一回でできることではない。神が造られた植物と同じである。苗がしっかり根づくには、動き回るのではなく、苗が同じ場所にとどまり、日々、天と地の恵みを受け続ける時、次第に根が出て根付いていく。私たちも、勝手に動き回るのではなく、主にとどまり続ける。

①一日の活動が始まる前に、毎朝、主と交わる（みことばと祈り）。その積み重ねで主に根づいていく。「イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた」

マルコ1：35

②一週間の活動が始まる前に、主の日、聖日を聖別し（神のための日として取り分けて保ち）、主のからだなる教会の神の民と共に神を礼拝する。その積み重ねで主に根づいていく。神が与えられた聖なるリズムは恵みである。「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ」（出20：8）。内なる炎が燃えてくるまでその心備えに留まり、そのような準備の後に迎える主の日がいかに美しく、いかに大きな益をもたらすか…土曜日の夜に神のもとに預けた心は、日曜日の朝も、主と共にあることを私たちは知ります。

③「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです」（マタイ18：20）と約束された祈り合う交わりに連なり、主に根ざしていく。JECAの教会も祈り支え合う。

Ⅳ 励まし。キリストの中に根ざす時、時が来ると実になる。

1. 「その人は主の教えを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ（思い巡らす）。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実になり、その葉は枯れない。その人は何をしていても栄える」（詩篇1：2，3）。主の中に根ざす人は、「神のみそばにすることが幸せです」（詩73：28）と本音で告白し、主の教えを喜びとする。主のみことばを慕い求める。その人は、毎朝、主と交わり、みことばを味わい、日常生活の中でも心の中で主の教えを思い巡らし、主の恵みを数え感謝しつつ仕事をする。仕事の戦いの中で、主のみことばは、私たちをしっかり支える。そのようにして、主に根ざし続ける時、主から霊的養分をいただき続け、主は励まし暖かい心を与えられ、神の時が来て、神の栄光を現す実が結ばれます。

2. 「ユダの家の中の逃れの者、残された者は、下に根を張り、上に実を結ぶ」イザヤ37：31。下にしっかり根を張ることなく、あせって上に伸びようとするなら、いつか倒れてしまう。44年前の証し。間違った教えの風や突然の人生の嵐の風で倒れてしまう。下に根を張ることは、人の目には目立たない。地味である。地道なことである。しかし、それが大切である。多くの愛の実践をされた主が目立たない所でなさったこと、主のお働きを支えたもの→「群衆を帰したあとで、祈るために、ひとりで山に登られた」マタイ14：23。一日の仕事、務め、学びを始める前に、神の前に静まり神と交わる幸いな大切な時は、人の目に付かない。しかし、それは、主に根ざす大切な時。主から霊的な養分をいただき、日々を主と共に生きる。失敗、試練から主に頼り主に根ざす事を学び、苦しみや試練の中でも支えて下さる主を知る。

3. イエス様という土台に深く根を張る人は、健全な霊的な柔軟性が与えられる。「やり過ぎず、やらなさ過ぎず」信仰書の証し。上に上に伸びるビルや大木や人生の表面的成功は、人に誉められるかもしれない。しかし、柔軟性がない木やビル、人生は大風、試練で折れたり、倒れた

りし易い。しかし、柔軟性のある木や建物、人生は風が吹いても倒れにくい。根や土台がしっかりしているだけではなく、健全な柔軟性を与られているから。お相撲さんもしこと柔軟性。主にもパウロにも土台がしっかりしていると同時に、健全な柔軟性があった→①主は、「カエサルのはカエサルに（税金を払い）、神のものは神に返しなさい」（マタイ 22：21）と言われた。つまり、完全な国はないが、法律で決められた税を払いなさい。②パウロは、主を信じる信仰だけが救いの条件と堅く確信し割礼を受けることは救いの条件ではないと確信していたが、宣教の協力者テモテに割礼を受けさせた（使徒 16：3）。伝道者の書 7：16 に「あなたは正しすぎてはならない」とある。この意味は、聖書が明確に命じていない事では、自分の意見だけが正しいと思わず、他の人の違う意見にも耳を傾ける柔軟性を持ちなさいという事。主に深く根を張る人は、主と聖書に土台を置くと同時に、聖書に明確に書いてない事では、祈り合い互いに聞き、語り合い、物事を識別し柔軟に決めて行く人です。私たちも主とみことばに根を張りながら、健全な柔軟性を持って人との健全な関係作りができるように祈っていきましょう。